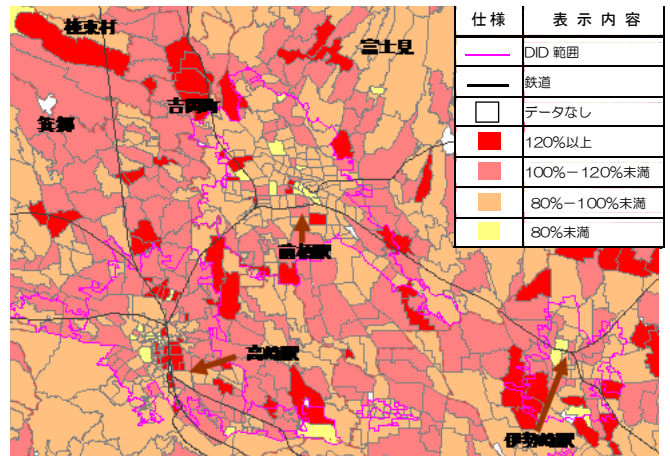


(4)人口減少、超高齢社会に対応したまちづくり

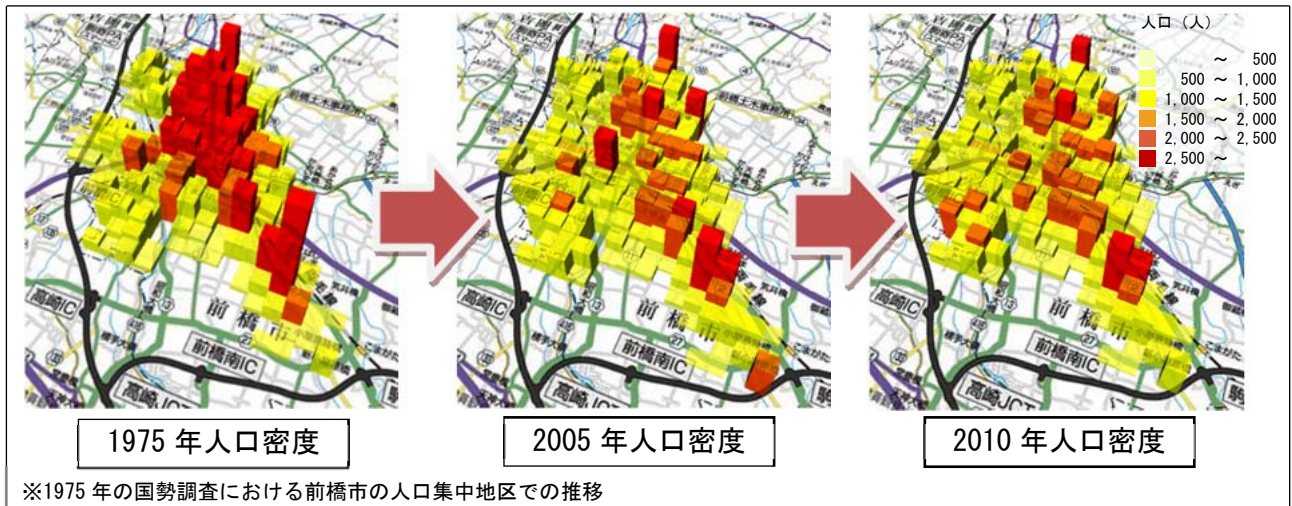
本県は、特定の都市に人口が集中せず、同規模の都市が多極的に分布する「多極分散型の都市構造」を形成していることに加え、人口集中地区の人口密度は低下を続け、全国45位（関東では最下位）と人口密度が低く広範囲に拡散した市街地を形成しています。

本県では、このような状況に加え、今後も人口減少、超高齢社会の進展が予想される中で、経済活動の停滞による地域の疲弊、交通弱者・買物弱者の増加などの問題が懸念されます。このまま放置した場合、子どもから高齢者まで住みにくく、福祉的経費を多額に必要とする県土が形成されることとなります。

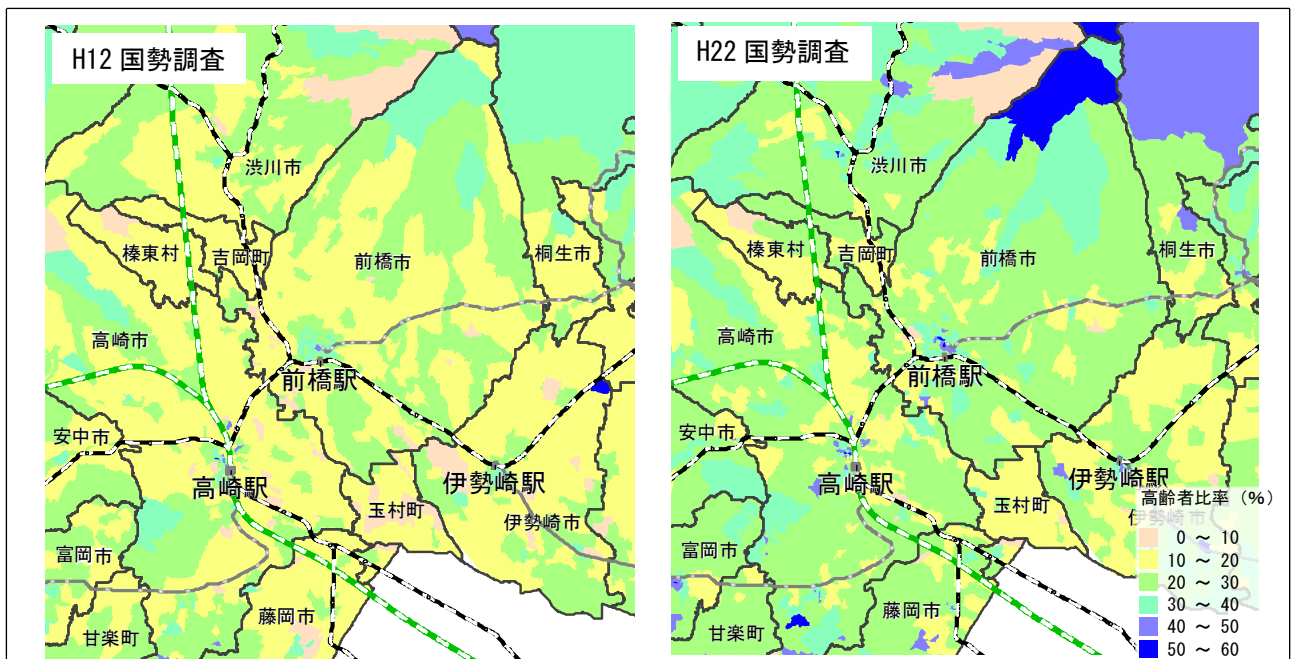
したがって、子どもや高齢者でも住み続けられる、歩いて暮らせるまちづくりを実現する施策を講じる必要があります。



図表-16 人口分布の変化
(H12 に対する H22 の人口変化率)



図表-17 市街地の人口密度の推移(前橋市)



図表-18 高齢化の進展の状況